

6月1日は「気象記念日」 ～気象庁 気象統計情報より～

「気象記念日」というのをご存じでしょうか？「気象記念日」は、明治8年6月1日に東京で気象と地震の観測が開始されたことを記念して定められています。気象観測には計測器（アメダス）等が用いられ、降水量など様々なデータを計測しています。この計測器は、全国に約1,300ヶ所あり、このうち17ヶ所が京都府内にあります。これらの地点で観測された膨大なデータのうち、いくつかをご紹介します。

表は、京都府内8ヶ所の平成22～24年平均気温とその年較差を示した表です。年較差とは「その年の最高気温から最低気温を引いた値」です。この値が大きいほど、気温の変化が大きいということになります。年較差は内陸で大きくなることが知られていますが、京都府ではどうでしょうか。

表 平成22～24年の最高気温、最低気温及び年較差

(単位：℃)

	京田辺	京都	園部	美山	福知山	舞鶴	宮津	間人
最高	37.2	37.5	37.3	36.0	37.5	37.9	37.2	35.8
最低	△6.0	△3.3	△9.7	△7.4	△6.0	△3.3	△4.2	△2.3
年較差	43.2	40.8	47.0	43.4	43.5	41.2	41.4	38.1

資料：気象庁ホームページ「気象統計情報」

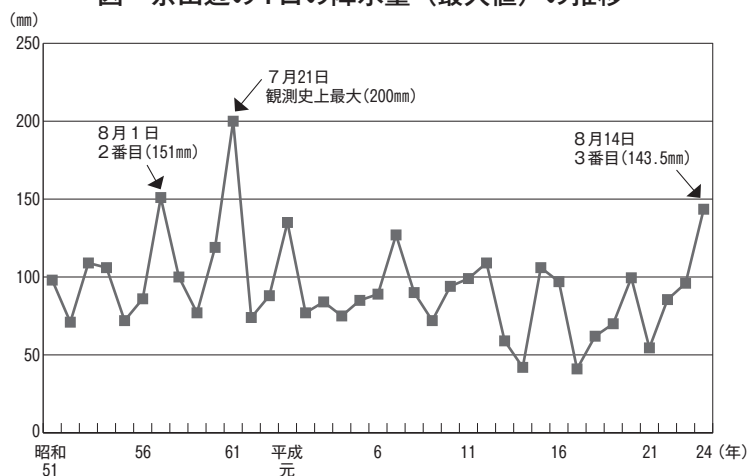
この表から、園部（南丹市）で最も大きく、間人（京丹後市）で最も小さいことがわかります。京都府においても、年較差は冬の寒さが厳しい内陸部で大きく、沿岸部で小さい傾向であることがわかります。

次に、降水量について見てみます。

ニュースで「観測史上最大を記録」という言葉を耳にしますが、これを検証するための時系列データも簡単に手に入れることができます。昨年8月の豪雨を例に見てみましょう。

図は、京田辺の降水量の推移です。昨年の豪雨では、1日の降水量が143.5mmを観測しました。これが過去最大の降水量であったか確認すると、昭和61年の200mm、昭和57年の151mmに次ぐ3番目雨量であったことがわかります（データのある昭和51年から掲載）。

図 京田辺の1日の降水量（最大値）の推移



資料：気象庁ホームページ「気象統計情報」